

シンハラ語二項動詞文の非主語項における 与格／対格の交替について

宮 岸 哲 也

Dative/Accusative Alternation in Non-Subject Argument of Two-Place Verbs in Sinhala

Tetsuya MIYAGISHI

1. は じ め に

一つの動詞でも、その非主語項が与格で標示される場合と、対格で標示される場合がある。このような与格／対格交替は様々な言語でもよく見られる現象である（中村2004: 170）。シンハラ語においても、同様の与格／対格交替が見られる。

- (1) ジョンが別の店にあたった。(中村2004: 170)
- (2) ジョンが別の店をあたった。(中村2004: 170)
- (3) api kandəʔə næⁿgaa. (Chandralal 2005: 211)
私達[主] 山[与] 登る[過去] (私達は山に登った。)
- (4) api kandə næⁿgaa. (Chandralal 2005: 211)
私達[主] 山[対] 登る[過去] (私たちは山を登った。)

本稿は、シンハラ語二項動詞文の非主語項における与格／対格交替について記述するものである⁽¹⁾。具体的には、どのような二項動詞に非主語項の与格／対格交替が見られるのか、与格／対格交替によりどのような文意の違いが生じるのか、そして、与格／対格交替により文意の違いが生じる原理は何であるのかを、明らかにしたい。

2. 先 行 研 究

シンハラ語二項動詞文において、非主語項の与格／対格交替が可能な動詞として、まず、Gair (1970: 61-62) は、(5)~(10) の例を挙げ、*talənəwa* (ぶつ, 叩く), *allənəwa* (捉える, 訴える), *kataa kərənəwa* (話す, 呼ぶ) のような動詞が、動詞の意味の違いによって与格標示の目的語と対格標示の目的語を使い分けることを指摘している。これらのうち、(5)(6) の与格名詞と対格名詞は、どちらも叩く対象であるにも関わらず、異なる格標識をとることが問題となる。一方、

(1) シンハラ語の与格は接尾辞 *ə* で表され、対格は無生名詞の場合には無標示、有生名詞の場合には、無標示か接尾辞 *wə* で表される。なお、対格名詞が無標示の場合は、基本語順 SOV 有有生性階層により、無標示の主格との区別がなされる。

(7)～(10)の与格名詞と対格名詞は、構文的な意味が異なるため、格標識が異なっても問題にはならない。つまり、(7)の与格名詞は判断をする主体であるのに対し、(8)の対格名詞は捕捉対象である。また(9)の与格名詞は言語活動の相手であるのに対し、(10)の対格名詞は言語活動の媒体である。

- (5) guruwərea laməin̄tə təlua. (Gair 1970: 61)
 教師[主] 子供達[与] 叩く[過去] (教師は子供達をぶった。)
- (6) madinə miniha mal talənəwa. (Gair 1970: 62)
 椰子絞り人[主] 花[与] 叩く[非過去]
 (椰子絞りは[花汁を絞るために] 花を叩く。)
- (7) ee minihage wəɖə maɖə allənnə næə. (Gair 1970: 61).
 その 男[属] 仕事[主] 私[与] 捉える[不定] ない
 (その男の仕事は私に訴えない。)
- (8) kollo metənə maalu allənəwa. (Gair 1970: 62).
 少年達[主] ここ 魚[対] 捉える[非過去] (少年達はここで魚を捉える。)
- (9) lamaeɖə kataa kərənnə. (Gair 1970: 61).
 子ども[与] 呼ぶ[命令] (子供を呼びなさい。)
- (10) mamə sinhələ kataa kərənəwa. (Gair 1970: 62).
 私[主] シンハラ語[対] 話す[非過去] (私はシンハラ語を話す。)

また、Chandralal (2005: 211) は nəⁿginəwa (登る) を非主語項の与格／対格交替が可能な例として示し、その名詞句が着点を示す場合は与格をとるのに対し、制覇の対象を示す場合には対格をとると指摘している。そして、与格／対格交替の原理として、Chandralal (2005: 212) は、対格の場合は行為により直接的に影響を受ける実体として捉えられるのに対し、与格の場合は、直接的な影響をより少なく受ける実態として捉えられるとしている。

- (11) api kandəɖə nəⁿgaa. (Chandralal 2005: 211)
 私達[主] 山[与] 登る[過去] (私達は山[の頂上] に登った。)
- (12) api kandə nəⁿgaa. (Chandralal 2005: 211)
 私達[主] 山[対] 登る[過去] (私たちは山に登った。[登山者が山を制覇した])

更に、Chandralal (2010: 110, 111) は、移動行為の着点は与格で標示されるが、それが習慣的な移動行為である場合は、着点が対格で標示されると述べている。ただ、なぜ習慣的な移動行為になると着点が与格から対格に交替するのかについての説明はない。

- (13) Ranjit pansələɖə yanəwa. (Chandralal 2010: 111)
 ランジット[主] 寺院[与] 行く[非過去] (ランジットが寺に行く。)
- (14) həmə sikuraadamə taattə koləmbə yanəwa. (Chandralal 2010: 110)
 いつも 金曜日 父[主] コロンボ[対] 行く[非過去]
 (毎週金曜日父はコロンボに行く。)

なお Kanduboda (2011) は、対格目的語と与格目的語をとる動詞は基本的に一致しないとしつつ、双方の格がとれる例外として、*riddənəwa* (傷つける), *tarəwətu kərənəwa* (叱る), *tuwaalə kərənəwa* (傷つける), *dashṭə kərənəwa* (嘔む), *prashəṣhə kərənəwa* (褒める) の五動詞を挙げている。

以上、先行研究をまとめると、現段階ではシンハラ語の非主語項の与格/対格交替については以下のようなことが言える。

- ①シンハラ語二項動詞には、非主語項の与格/対格交替が可能なものが部分的に挙げられているが、この現象に焦点を当てた研究は見当たらない。
- ②非主語項の与格/対格交替が可能な場合、与格名詞と対格名詞との差異は、それぞれが受ける影響の違いとして捉えらえることや、習慣性の有無として捉えられることが指摘されている。

以上のことから、本稿ではまず、先行研究で取り上げられた動詞以外にも、非主語項の与格/対格交替があるかどうかを調べ、そのような動詞について分類することが必要である。また、動詞の持つ意味、非主語項に対する影響度の違い、習慣性の有無のような先行研究で示された使い分けの基準が、どの程度適用できるのか、また、これらを統括できる新たな基準を設定できるのかも考える必要がある。

3. 非主語項の与格/対格交替が可能なシンハラ語動詞の分類

ここでは、非主語項の与格/対格交替が可能な動詞について、動詞の持つ意味から分類を試みる。ここで提示する分類は、④投打行為、⑤移動行為、⑥態度、⑦傷つけ行為の4つである。なお、用例は先行研究とインターネットから集めたものである。

④投打行為

投打行為については、まず Gair (1970: 61) が *talənəwa* ([軽く] 叩く) を示しているが、その他、*gasənəwa/gahənəwa*⁽²⁾ (叩く) と *taṭṭu kərənəwa* (叩く) も同じく、非主語項の与格/対格交替が可能な二項動詞として確認できた。

- (15) *guru meeseṭə tæluwa*. (cyberyaya.blogspot.com/2012_05_01_archive.html)
教師 机[与] 叩く[過去] (教師が机を叩いた。)
- (16) *gupaala kuru^udu tæluwa*. (www.silumina.lk/2010/03/07/_art.asp?fn=aw1003072)
グナパーラ 肉桂[対] 叩く[非過] (グナパーラは肉桂 (シナモン) を叩く。)
- (17) *maṭə dənupa kawuruhari magee dorəṭə gahənəwa wagee*.
私[与] 感じる[過] 誰か 私[属] 戸[与] 叩く よう
(誰かが私の戸を叩くように感じられた。)
(www.dinamina.lk/manchu/art.asp?id=2013/02/19/mpg07_0)

(2) シンハラ語の音韻では、/s/, /h/ の発音が方言間で交替する。

- (18) polis mahattaya bera gahənəwa.
 警官 太鼓[対] 叩く[非過] (警官が太鼓を叩く。)
 (makaraguhawa.blogspot.com/2011/12/blog-post_06.html)
- (19) kawudoo əwit maṭə tattu kərənəwa.
 誰か 来る[完了] 私[与] 叩く (誰かが来て私を叩く。)
 (www.nursinglk.com/2012/03/86.html)
- (20) oya rabaanə tattu kərə wiriduwak dekak kiya sahaawə satuṭu kərəpan.
 その 太鼓[対] 叩く[完了] 詩一つ 二つ 言う[完了] 聴衆[対] 楽しませる
 (si.wikibooks.org/.../)
 (その太鼓を叩き、詩を吟じて聴衆を楽しませよう。)

㊤移動行為

移動行為については、Chandralal (2005: 211) では naginəwa (登る), Chandralal (2010: 111) では yanəwa (行く) を、非主語項の与格/対格交替が可能な動詞として挙げていた。更に本稿では enəwa (来る) も、同様の動詞として確認した。

- (21) mamə gasaṭə nagintə turu owuntə ee gas yaṭəṭə wii siṭiməṭə sidu wiṭə
 私 木[単・与] 登る まで 彼ら その 木 下 いる留まるようになるとき
 (私が木に登るまで、彼れがその木の下にずっといるようなとき)
 (www.silumina.lk/2013/08/18/_art.asp?fn=as1308182&p=1)
- (22) adəṭət baṇḍaa gas naginəwa (www.lankadeepa.lk/index.php/articles/146978)
 今日も バンダ 木[複・対] 登る (今日もバンダが木に登る。)
- (23) api ikmənəṭə pansələṭə yanəwa.
 私達 急いで 寺[与] 行く (私たちは急いで寺に行く。)
 (amaleymunasinghe.blogspot.com/2013/05/blog-post_6.html)
- (24) mamə yi ammə yi senəsuraadaa pansələ yanəwa.
 私 も 母 も 土曜日 寺[対] 行く[非過去]
 (私も母も土曜日に寺に行く。)
 (https://profiles.google.com/101231287630715563376/.../1gUW4ML96...)
- (25) api kohomə hari iskooletə aawə. (onlymen.page.tl > Forum > English Stories)
 私達 何とかして 学校[与] 来る[過去] (私たちは何とかして学校に来た。)
- (26) hāmədaamə iskoole enəwa. (dinukajayakodi.blogspot.com/2012/08/blog-post_5.html)
 いつも 学校[対] 来る[非過去] (いつも学校に来る。)

㊦態度動詞

態度動詞は主体の態度を表す動詞である。Kanduboda (2011) は prashansaa kərənəwa (感謝する, 賞賛する) を例として挙げていたが、本稿では更に、waⁿdinəwa (祈る, 信じる), namaskaarə kərənəwa (祈る, 信じる), arak gannəwa (守る), purudu wenəwa (慣れる), tarawaṭu karanawa (叱責する) の例を確認した。

- (27) deewə dayaawəṭə prashansaa kəṛəmin api yaacṇaa kəṛəmu.
 神 愛[与] 感謝 する 私達 祈り する
 (神の愛に感謝しながら私たちは祈ろう。) (divinemercysrilanka.com/.../115-)
- (28) “anee maṭə aaṣṣaa kəṛənnə” “maawə pīḷigannə” “maawə prashansaa kəṛənnə”
 ああ 私[与] 必要とする[命令] 私[対] 認める[命令] 私[対] 賞賛 する[命令]
 (ああ, 私を必要としてくれ, 私を認めてくれ, 私を賞賛してくれ)
 (nethumala.blogspot.com/2012/07/blog-post.html)
- (29) sinhələ awurudda dawaseet ee ayə dewiyaṇṭə waⁿdinəwa.
 シンハラ 正月 日 も その 女 神[与] 祈る
 (シンハラ暦の正月にもその女性は神に祈りを捧げる。)
 (www.silumina.lk/punkalasa/20080413/_art.asp?fn=ar0804138)
- (30) dæn haamuduruwənee lookəyee pradhaanə aagam gattaamə
 今 僧侶たち 世界[属] 主要な 宗教 得る
ee həmə aagəmakmə dewiyan waⁿdinəwa. (yayuthumaga.com/new/?p=37)
 その どの 宗教 神たち[対] 信じる
 (今僧侶たちは世界の主要な宗教を会得し, その全ての宗教の神を信じている。)
- (31) aanandə himiyo sansunwə budunṭə namaskaarə kəḷəhə.
 アーナンダ 師 静かに ブッダ[与] 祈る[過去]
 (アーナンダ師は静かに仏に祈った。) (dreamsofharee.blogspot.com/2012/09/10.html)
- (32) budun namaskaarə kələ ayekuṭə nam meyə sitēhi rəⁿdenəwa noanumaanəyə!
 ブッダ[対] 信じる 人[与] [主題] それ 心[場] 留める 疑いない
 (ブッダを信じる人にとっては, それを心に留めておくことに疑いはない。)
 (https://www.facebook.com/kegaluvidyalaya?ref=stream&viewer_id...)
- (33) əyə miyə yannee əyəgee sirurəṭə arak gatta yəəyi kiyəla
 彼女 死ぬ 行く 彼女[属] 遺体[与] 守る[過去] と 言う[完了]
 (彼女が死んだとき彼女の遺体を守ったと言って)
 (www.divaina.com/2012/11/11/feature13.html)
- (34) Disni citrapəṭə ḷamaa lookəyə arak gatta.
 ディズニー 映画 子供の 世界[対] 守る[過去]
 (ディズニー映画は子供の世界を守った。)
 (srilankamirror.lk/sinhala/news/interviews/7783-animation)
- (35) akkaa wibhaageṭə paḍam kəṛənə nisaa kaaməreeṭə gihin karədərə kəṛənnə
 姉 試験[与] 勉強 する ので 部屋 行く[完了] 邪魔 する
epaa kiyələyi ammaa maṭə tarəwəṭu kəṛənnə (kottu.org/blog/11660)
 いけない と 母 私[与] 叱り する
 (お姉さんが試験勉強中だから部屋に行って邪魔しちやダメと母は私を叱り)
- (36) apəwə tarəwəṭu kiriiməṭə lak kiriimə tuḷə dewiyan wahanseegee arəmuṇə wannee
 私達[対] 戒めること[与] 集中する 中 神 さま[属] 意図する
ee tuLin un wahanseegee preeməyə mahatwəyə penwiiməṭə...
 その 中 彼 さま[属] 愛情 偉大さ 見せること...

(私達を戒めることに集中する神の意図は、その中で神の愛の偉大さを見せるため)

(www.gotquestions.org/Sinhala/Sinhala-God-discipline.html)

- (37) ṭikə dawəsak yanə koṭə koluwə rusiyan bhaashaaəṭə purudu wuṇa.
 少し 日 過ぎるとき 少年 ロシア 語[与] 慣れ なる[過去]
 (少し日が過ぎて、少年はロシア語に慣れた。)
 (sulakkhana.blogspot.com/2011/01/blog-post.html)

- (38) alut alut wacənə goḍak mamə igenə gannəwa, eekə hondəyi, bhaashaawə
 新しい新しい 言葉 沢山 私[主] 学ぶ それ いい。 言葉[対]
purudu wenəwa nee. (blog.shaakunthala.com/2008/11/blog-post_14.html)
 慣れ なる ね (新しい言葉を多く学ぶのがいい。言葉に慣れるよね。)

⑩傷つけ行為

このグループに分類される動詞は、Kanduboda (2013) で示された riddanəwa (傷つける), tuwaalə kərənəwa (傷つける), dashṭə kərənəwa (咬む) 以外には見つからなかった。

- (39) umbəlaa magee rep kapəla maṭə riddanəwa nee.
 あなたたち 私[属] 布 切る[完了] 私[与] 傷つける[非過去] ね
 (あなたたちは私の服を切りつけて私を傷つけますね。)
 (www.elakiri.lk › ElaKiri Community › General › ElaKiri Talk!)
- (40) ee matəkə goḍak maṭə riddanəwa.
 その 記憶 沢山 私[与] 傷つける[非過去] (その記憶が強く私を傷つける。)
 (goldzone-tc.blogspot.com/2011/06/blog-post_06.html)
- (41) aadaree həmədaamə maawə riddanəwa nam
 愛 いつも 私[対] 傷つける なら (愛がいつも私を傷つけるなら)
 (www.facebook.com/pages/᳚᳚᳚-Kadula/194300657340952?sk)
- (42) eyaəṭə tuwaalə kərənəwa ehemə nemee! Don't you hurt him.
 彼[与] 傷 する そんな ない (彼を傷つけた。そんなことはない)
 (glosbe.com › Sinhala-English Dictionary)
- (43) roosə mal lassənəyi namut api hitanne male lassənə witərəyi male naṭuwe kaṭu
 薔薇 花 美しい しかし 私達 思う 花 美しい だけ 花の とげ
apiwə tuwaalə kərəyi kiyəla
 私達[対] 傷 する と
 (薔薇の花は美しいが花が美しいだけで花のとげが私達を傷つけると私達は思う。)
 (<https://www.facebook.com/my.one.and.only.../430505963700610>)
- (44) ṭikə durak yanə koṭə oyaa magee piṭəṭə dashṭə kərəawi.
 少し 遠く 行く とき あなた 私[属] 背中[与] 噛む[過去]
 (少し離れたとたん、あなたは私の背中に噛み付いた) (www.hirufm.lk/blog/inner-9)
- (45) kesee wetat obəwə sarpəyəku dashṭə kaḷəhot, obə sarpəyaa siṭinə
 どんな でも あなた[対] 蛇 噛む[過去] なら あなた 蛇 いる

sthaanəyen wahaa iwat wiyə yutu namut diwiimak nokə]ə yutuyi.
 ところ[奪] 急いで 逃げる べき ない 走る こと しない べき
 (どんな時でも蛇に咬まれたら、蛇のいるところから急いで逃げるべきでなく、走るべきでない。[心臓の鼓動が早くなり、血管に入った毒が早く身体に回ってしまう])
 (www.dinamina.lk/arogya/art.asp?id=2011/01/12/apg02_0)

4. 非主語項の与格/対格交替による文意の違い

4.1 与格/対格交替による投打動詞文の意味の違い

4.1.1 投打行為の目的の違い

既に見た通り、(5)(15)(17)(19)の与格名詞をとる例は、それぞれの投打行為が、何らかの感情表示や注意喚起のような目的があるにせよ、それ以外の特別な目的は存在しないものであった。一方、(6)(16)(18)(20)のような対格名詞をとる例は、楽器を演奏したり、物を加工したりするように活動や作業としての目的が見いだせるものである。同様の例は(46)(47)にも見られる。更には、遊びを目的とする(48)、祈願⁽³⁾を目的とする(49)、運搬作業を目的とする(50)のような例も見られる。なお、シンハラ語母語話者のインフォーマントによると「gonaa talənəwa」(牛を叩く)行為には、更に牛に鋤を引かせ田畑を耕すという意味もあるそうである。

(46) gal wəḍapa]ee gəhə]ənu warshaawa mæddeē bimə waaḍi wela gal talənəwa.
 石 作業場 女 雨 中 地面 座る[完] 石[対] 叩く[非過]
 (石屋で女が雨の中地面に座り石を叩く。)
 (www.divaina.com/2009/10/15/sarasavi%201.html)

(47) mamə gi]aar gahənəwa. (www.athirasa.info/p/blog-page_9212.html)
 私 ギター[対] 叩[非過] く (私はギターを弾く)

(48) ee dawaswəla apit ehaagedəra midulee bool gahənəwa.
 その 日々 私達 隣家 庭 ボール[対] 打つ
 (最近私達も隣家の庭でボールを打つ。)
 (raj-rajmyblog.blogspot.com/2012/02/blog-post_14.html)

(49) leḍeetə hehet gəniimə wenuwa]ə meya kərənne dewiya]ə pol gahənəwa.
 病人[与] 薬 買うこと 代わり この人 する 神[与] 椰子[対] 叩く
 (この人が病人に薬を買う代わりにすることは神の為に椰子を叩き割ることだ。)
 (saveourbuddhism.blogspot.com/2009_06_28_archive.html)

(50) karə]tta karu gonaa talənəwa. (kawilanda.blogspot.com/2012/06/blog-post_05.html)
 車引き (人) 牛[対] 叩く[非過] (車引きが牛を叩いた。)

4.1.2 投打行為による対象変化の違い

また、対象変化の程度も、投打動詞の非主語項が与格・対格のどちらで取るかによって異なる。

(3) 鈴木 (1996: 281) によれば、ココナツを割る所作にはヒンドゥー神殿の正面で神々に自らの願をこめてその成就を祈る作法である。

基本的に (5) (15) (17) (19) のように与格名詞をとる場合には、対象変化は生じない。しかし、対格名詞をとる場合 (6) (16) (46) (49) では対象が変形し、(18) (20) (47) では対象から生じる音の大きさ、高さ、テンポなどが変化し、(48) (50) では対象の位置が変化する。

4.1.3 投打行為の反復性の違い

投打行為の反復性については、傾向として与格名詞をとる場合は少なく、対格名詞をとる場合は多い。与格名詞をとる場合を考えてみると、(5) や (15) のように教師が学生を叩いたり、学生に注意を促すために机を叩くのは、どちらも一般的に1回だけだろう。また (17) のように戸を叩く場合の回数は、一般的に2、3回程度だろう。一方、対格名詞をとる場合を考えてみると、作業や活動を表す (6) (16) (18) (20) (46) (47) (48) (50) の投打行為は、何度も繰り返す。例外は (49) のように床に叩きつけるときで、この場合は1回だけである。

4.2 与格/対格交替による移動動詞文の意味の違い

4.2.1 移動の目的地に対する支配性の違い

移動動詞文の与格名詞は (11) (13) (21) (23) (25) のように、いずれも単に着点を表していた。一方、移動動詞文の対格名詞については、(12) のように登山という行為によって制覇される対象 (Chandralal 2005: 212) であった。この違いは、登山だけではなく、一般的な移動行為を表す、*yanəwa* (行く) と *enəwa* (来る) にも当てはまる。なぜなら、どちらも習慣的に目的地に移動することにより、目的地を自分の生活圏に入れたことになるからである。つまり、移動動詞が与格の目的地をとる場合は、目的地が移動主体の支配範囲外にあるのに対し、対格の目的地をとる場合は、移動主体の範囲内に目的地があるのである。

4.2.2 移動の習慣性 (反復性) の違い

Chandralal (2010: 110, 111) は、(14) のように習慣的な移動行為の目的地は、対格で表示されると指摘している。(12) のような登山の例では、一見すると反復性は認められない。しかし、その登頂に至るまでの過程においては、山肌をジグザグに登っていくことに反復のイメージを認めることができる。一方、(11) のように目的地が与格名詞で表される場合には、単に到着点としての山の頂上を指しているだけなので、反復のイメージは認められない。また、シンハラ語母語話者のインフォーマントによると、(12) のような文は、山のないコロンボのような都会の人間には使えないが、山岳地帯の田舎の人間ならば使えるという意見があったが、そこには、やはり習慣的に山に登るという解釈があると考えられる。また、対格名詞をとる (22) は、複数の木を習慣的に登ることが表されている。

4.3 与格/対格交替による態度動詞文の意味の違い

4.3.1 相手に対する支配性の違い

態度とは基本的に内面の精神状態が具体的な行為によって表されるものである。例えば、感謝とは、謝意という心理が頭を下げたり手を合わせたりという行為によって表される。

用例や母語話者のインフォーマントによる回答を分析すると、与格名詞をとる態度動詞文は具体的な行為に焦点が当てられ、対格名詞をとる態度動詞文は精神状態に焦点が当てられているように考えられる。例えば *wa^adinəwa* (信じる, 祈る), *namaskaarə kərənəwa* (信じる, 祈る) に

ついて、与格目的語をとる (29) (31) の場合は、まさに神仏像に祈る行為を表しているのに対し、対格目的語をとる (30) (32) の場合は、具体的に祈る行為をしていなくても、いつも頭の中で思っていることを表しているとのことであった。このようなことは、与格名詞をとる (27) (33) (35) と対格名詞をとる (28) (34) (36) との対比にも見られる。

では、なぜ、具体的な行為の表現における与格標示の相手と、精神状態を判断する表現における対格標示の相手との間に支配性の違いがあると言えるのか。それは、Chandralal (2005: 212) が指摘している通り、シンハラ語で与格／対格交替がある動詞において、与格名詞は直接的な影響が少ない実態として捉えられるのに対し、対格名詞は直接的に影響を受ける実体として捉えられることに由来する。そして、与格標示の相手は直接的に受ける影響が小さいため、主体からの支配性が低く、逆に対格標示の相手は直接的に受ける影響が大きいため、主体からの支配性が高くなるのである。

4.3.2 継続性・反復性の違い

前節で検討した相手に対する支配性の違いは、継続性・反復性の違いとも関わってくる。つまり、与格名詞をとる態度動詞文は、一回性の具体的な行為を表すのに対し、対格名詞をとる態度動詞文は継続的な精神状態を表すのである。例えば、(27) (28) の *prashansaa kərənəwa* (感謝する)、(29) (30) の *waⁿdinəwa* (祈る、信じる)、(31) (32) の *namaskaarə kərənəwa* (祈る、信じる)、(33) (34) の *arak gannəwa* (守る)、(35) (36) の *tarəwəṭu kərənəwa* (叱る、戒める) のペアを見比べると、それぞれ与格名詞をとる前者は一回的な行為であるが、対格名詞をとる後者は継続的な精神状態を表している。

なお (37) (38) の *purudu wenəwa* (慣れる) の与格／対格交替による意味の違いについて、与格名詞をとる場合は言葉に慣れたという結果のみに注目しているのに対し、対格名詞をとる場合は慣れるまでの過程を表している。そして、このような意味において与格名詞をとる場合は一回性を表し、対格名詞をとる場合は継続性を表すのである。

4.4 与格／対格交替による傷つけ動詞文の意味の違い

4.1 方向性の有無の違い

傷つけることを表す (39)～(45) の *riddənəwa* (傷つける)、*tuwaalə kərənəwa* (傷つける)、*dashṭə kərənəwa* (咬む) の各々の動詞文において、与格／対格交替による意味的な違いはほとんど見られない。ただ、(44) (45) の *dashṭə kərənəwa* (咬む) において、与格名詞をとる (44) では、対象に向かう方向性の意味が含まれるのに対し、対格名詞をとる (45) では、そのような方向性は特に含まれていないように思われる。そのような方向性を除けば、与格／対格交替による傷つけ動詞文の違いは、投打動詞文、移動動詞文、態度動詞文の場合と比べても明瞭でない。

5. ま と め

今までの議論を纏めると次の表1になる。ただ、この表に示した意味的特徴は傾向を示すもので、個々の特徴を必ずしも全て備えていなければならないということではない。投打動詞を例に挙げると、儀礼として椰子を叩き割る (49) の場合、反復性はないが対象変化が大きいため、結果として対格名詞をとることになっている。

表1 与格・対格の目的語交替が可能なシンハラ語動詞文の意味の違い

動詞分類	意味的特徴の分類	与格名詞をとる文	対格名詞をとる文
投 打 動 詞	目的	投打行為	活動・作業
	対象変化	小	大
	反復性	少	多
移 動 動 詞	目的地の支配性	小	大
	反復性	少	多
態 度 動 詞	相手への支配性	小	大
	反復性(継続性)	少	多
傷つけ動詞	方向性	有	無

表2 対格/与格目的語交替が可能な動詞の位置づけ

対格目的語のみ	対格/与格目的語交替可能	与格目的語のみ
	傷つけ動詞	投打動詞 態度動詞 移動動詞

表1をもとに、更に考察を進めると、投打動詞、移動動詞、態度動詞は、いずれも反復性の多少が与格/対格交替に影響していることが挙げられる。また、これらの動詞は、いずれも与格名詞をとる場合よりも、対格名詞をとる場合のほうが、対象への影響度・支配度が大きいということでも一致している。

一方、傷つけ動詞については、他タイプの動詞とは異なり与格・対格の目的語の交替が可能でも、それぞれの文の意味の違いは不明瞭で、あったとしても方向性の有無がある程度であった。その理由は、傷つけ動詞に対象変化の意味が含まれ、他タイプの動詞と比べても他動性 (Hopper & Thompson 1980) や被動作性 (角田1991) が高いためだと考えられる。仮にシンハラ語の二項動詞を①対格目的語のみをとる動詞、②対格/与格目的語の交替が可能な動詞、③与格目的語のみをとる動詞というように区別した場合には、今回取り上げた動詞のタイプは表2のような位置に置かれると考えられる。つまり、傷つけ動詞は、投打動詞、態度動詞、移動動詞よりも、対格目的語をとる動詞に近いということである。

6. お わ り に

今後は、シンハラ語二項動詞の非主語項として、対格名詞をとる動詞と、与格名詞のみをとる動詞との対比、並びに、共格名詞、奪格名詞をとる動詞との対比を行うことで、シンハラ二項動詞の体系性を明らかにしたい。

参 考 文 献

- Chandralal, Dileep (2005) *Language and Space: Cognitive Semantics of Sinhala Grammatical Categories*, Sarvodaya Vishva Lekha,
- Chandralal, Dileep (2010) *Sinhala*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- Gair, James W. (1970) *Colloquial Sinhalese Clause Structures*. Mouton, The Hague
- Hopper, Paul & Thompson, Sandra (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56, pp251-299
- Kanduboda, A. B. Prabath (2011) The Role of Animacy in Determining Noun Phrase Cases in the Sinhalese and Japanese Languages, 『ことばの科学』24巻, 名古屋大学言語文化研究会, pp 5 -20
- 鈴木正崇 (1996) 『スリランカの宗教と社会—文化人類学的考察』春秋社
- 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 中村芳久 (2004) 『認知文法論Ⅱ』大修館書店

〔2013. 9. 26 受理〕